京都のINGを CHECK IT OUT!!

口コミ情報カタログ

編集長の今月の変言変語

ひとつよろしくてー！

恋の場外乱闘

30歳目前。もう手段は選ばない。恋愛成就を求めて奔走する、覆面ライターの顛末は…

この連載も9カ月目に突入。オメデトウ、ぱちぱちぱち…。って、ちっがーう！　私の予定では半年で彼氏を見付けてカーテンコールの予定だったのに…。疲れた。海よりも深く。「そうだ、こんな時こそエステに行こう」。己を磨いてしなびたフェロモンを復活させるのだ！

永遠に美しく 編

「フェロモン、満タンで」とお邪魔したのは綾小路室町の「ラ・ミ～ユ」。こちらの松田ゆみさんには、取材で何度もお世話になった。ちなみにコアな沢田研二ファンでもある。「はい、じゃあコレに着替えて」と渡されたのはAラインのワンピ。まるで汚れのない少女よう。

思いのほか愛らしい施術用ワンピに着替えてルンルンで横たわる。御願いしたのは、フェイシャルのベーシックコース（80分4500円）。コメカミ辺りを時折、ギュギュ～っと押さえてもらいながらクレンジング、マッサージ。続いて吸引が始まる。コレがマジで効いた。

実はワタクシ、毛穴目立つ。俗に言う「イチゴっ鼻」。ゆみさんが「取れそうねぇ～」とニンマリしていた通り、見事にコメドを大収穫。ニキビの角栓まで取れた時は、シャンパンを抜くようなスッポーンって快感が。その後パックを終えた私の肌は、そう「プリン」！

ちゅるっとして、吸い付くようなしっとり感。「洗顔料ダブ」のコメントではありません。っちゅーか、ファンデーションがいらんくらい肌が明るくなっている。「き、キレイ…」。誰も言ってくれないので一人つぶやく。さむい。まさに「食べ頃」なのに。そこのアナタ、どうどす？

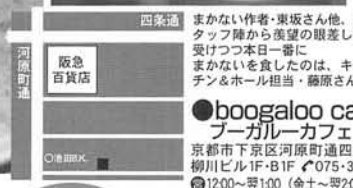
「ラ・ミ～ユ」
京都市下京区綾小路通室町西入ル　グランドビル21-802
TEL.075・371・1136
http://www.lameyu.com

地域融合、用途多様なカフェのエネルギー源は変幻自在の深いアジ

ランチに始まり、お茶にスイーツにバーまでも。アイドルタイムの存在しない当カフェにおいて、まかないは時短が命。ランチの残りを最大限に活用が、ほぼ日常で採用。本日は表面をカリッと焼いたチキンのソテーに、たっぷりソースをかけて。トマトと生クリームにカレー粉、ニンニク、コンソメ…などをクツクツ煮込んだソースは、美味いカフェめし処の威信を覗かす一品。チキンの上にはトロッと溶けた濃厚チーズ。まろやかソースの中に顔を出すコロッとザク切りのトマトを食べればロの中は一転、爽快。ご近所の某カレーチェーンと勝手に勝負の心意気でピリッとしめるカレー味。一口で語るに早いこのまかないのこの味。東男が浪花のデザインユニットとコラボして、京に開いた我らブーガルーカフェの姿を象徴しているかのようで。

チキンのソテー、トマトと生クリームのカレーソース、ライス

うちのまかない



まかない作者・東坂さん他、スタッフ陣から羨望の眼差しを受けつつ本日一番にまかないを食したのは、キッチン&ホール担当・藤原さん

●boogaloo café
ブーガルーカフェ
京都市下京区河原町通四条下ル三筋目東入ル柳川ビル1F・B1F ☎075・344・6681
営12:00～翌1:00（金土～翌2:00、日～24:00）無休

Cafe 椅子図鑑

京都市中京区蛸薬師通新町西入ル不動町180
☎075・257・3865
営11:00～20:00／月休
http://www.dogcafe.co.jp

Dog Cafe general store
ドッグカフェ・ゼネラル・ストア

2Fフロアにも、神戸の小学校で使われていたスクールチェアや、背もたれの裏に聖書を入れるポケットがついたイギリスのチャーチチェアなど、味のある年代モノが並ぶ

場所を変え、時を経て人と犬とで磨くセピアの艶

初めて見た時からすっかり惚れ込んでいたというこのカウンターチェアは、京都にドッグカフェをオープンさせた時、オーナーが知人から譲り受けたもの。すでに十分に使い込まれた深い栗色の木製のイスは、昭和初期に民家として建てられたこのハコの寡黙で暖かい空気に狙い通りしっくり。開店時にレンガを積んで作られた初々しさの残るカウンターの背丈とは運命的にぴったり。座って初めて分かる奥行きの広い座面は、数枚の板でつくるゆるい曲線がしっかり手に馴染んだ野球のグローブのよう。スラリと細い脚は、飼い主の足元に寄り添い体を休める常連犬や、店内を気ままに行く看板犬のルル&ハニーの邪魔もしないから、彼らもきっとお気に入り。

エステドラマ、ビューティアのレスポーワールのコンシェルジュ役の桃井かおりが決め台詞に発する名文句である。中でも女優役の川島なお美に、「プロとしての自覚がない人間にプロとしての仕事はしてさしあげる訳には参りません。女優とは24時間お仕事、自分を1ミリでもよく見せるためにストイックなまでに美を追い求める、自分を追い詰め芸を人生を磨く、だからこそ誰にもまねが出来ないオーラを放つのでございます」って時のその決めは凄かった！　あーうちの社員の誰かさんもひとつよろしくて～！

白眼から見えたモノ…万物に宿る可能性そして果てしなきネタ探し

メンバーは2人のはずなのに、制作チームに記された「パンダー」って一体誰？　編集長いわく、「ボク等の上司です（着ぐるみだけど）」

毎月上旬ごろ発行
●問い合わせ先 siromebu_butyou@hotmail.com
●配布先
ヴィレッジヴァンガード新風館店・アメ村店・大阪BAYATC店・天王寺ルシアス店・布施サティ店・奈良ガーデン店・奈良ピブレ店　恵文社一乗寺店　京都精華大学　大阪芸術大学　アンデパンダン　MAY（北山）etc.

白眼部

Kyoto Minima Magazine

昔から白眼で人を笑わせるのが快感で、「～部」を作ることが夢だった編集長・シンジロウ氏が学業の傍ら作る「白眼部（しろめぶ）」。「オモロイことを発表したい」と語る彼は、四六時中「オモロイモン」探しと空想にふけり、電車に乗ればつり革のあらゆる使い方を想像しては即座にスケッチ。それを「つり革の間違った使い方」と題し、「裏・つるの恩返し」なる名作パロディーと共に二大特集が完成する。第3号目から相乗りした幼なじみのシゲアキ氏も止めるどころか、負けじと日々ネタをあさり、紙面の奪い合い。編集長のネタ帳もすでに2冊目。10冊目になる頃、彼らはお笑い芸人になってたりして？

「白眼部」は第～号ではなく、白眼率～%で数える。現在のところ「005%」。3ケタも用意して、100%超える気？